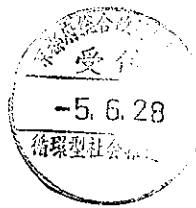


(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月 26日

京都府知事 様



提出者

住 所 京都府京都市伏見区浄菩提院町316番
氏 名 大和ハウス株式会社 京都支店
支店長 坂東 希
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 075-605-4356

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大和ハウス工業株式会社 京都支店
事業場の所在地	京都府京都市伏見区竹田浄菩提院町316番地
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	06 総合建設業
② 事業の規模	完成工事高 5,827百万円
③ 従業員数	226名 (2023.4.1)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	・解体工事 ガレキ類(コンクリート塊、アスコン塊)、木くず→再生処分業者に委託して、再生砕石、チップ(合材用、燃料用)として再資源化 ・新築工事 現場にて建設産廃を19品目に分別し奈良工場に一括して集め品目別に再生処分業者に委託し再資源化 ・新築工事(一般工事) 現場にて分別しリサイクル可能な品目については再生処分業者に託して再資源化。紙くずについては無償譲渡契約を締結し、可能な限り廃棄物にしない。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり	
			t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり	
		t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	別紙集計用シートのとおり t	t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・委託基準に従って処理委託基本契約の締結及び処理系統管理、マニフェスト発行など当社システムによる管理を実施。 ・可能な限り優良認定業者や再生利用業者への処理委託を行い、最終埋立処分量の低減をはかる。 ・委託業者の選定基準により、書類・現地審査を実施し、可否の判定を実施している。現地確認も当社基準により継続して実施している。		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・委託基準管理事項の継続・可能な限り優良認定処理業者を選定し再 資源化等の向上を図る。 ・処理委託業者施設の定期現地確認を継続する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

中間処理した後 の再処分又は 再資源化の状況	③資源物及び自ら自己処理 したものの数量(トン)	④①-②-④-⑤+⑥-⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫														⑬①+②から再資源化を行った量(トン)	⑭①+②から埋立処分又は 海洋投入処分を行った量(トン)
		費 用 に よ る 区 分															
		④再生利用業者への 処理委託量(トン)		⑤他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン)		⑥他国産廃棄物業者以外の 他国産廃棄物業者への処理委託量(トン)		⑦その他の国の中間処理 委託量(トン)		⑧埋立処分委託量(トン)		⑨他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン)		⑬の量と⑭の量を合計したもの (自動計算)		⑭の量と⑮の量を合計したもの (自動計算)	
		⑩の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑪の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑫の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑬の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑭の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑮の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑯の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑰の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑱の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑲の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	⑳の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	㉑の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	㉒の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	㉓の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	㉔の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)	㉕の量のうち、他国産廃棄物業者 への処理委託量(トン、台数)
今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績	今年度実績	前年度実績

〔注1〕トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

・下表にない種類の産業廃棄物については、「産業廃棄物の種類」欄に、品目名を記載してください。
・行が不足すれば、適宜追加してください。

産業廃棄物の種類	① 排出量(t)	② 自ら直接再生利用した量(t)	③ 自己資材増進処分又は再投入処分した量(t)	④ 自ら中間処理した量(t)	⑤ ④のうち転回を行った量(t)	⑥ 自ら中間処理した後の残余量(t)	⑦ 自ら中間処理により減量した量(t)	⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量(t)
注で定められている事項(シラレグーダスなど、一括で明分なものについて、広域村に委託して処理)	最終事業場において生じた産業廃棄物の種類ごとの量	①の量のうち、中間処理をせず最終倉庫から再生利用した量	①の量のうち、中間処理をせず自ら増進処分又は再投入処分した量	①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の最終中間処理後の量	④の量のうち転回を行った量	自ら中間処理を行った後の量	⑥の量から⑦の量を差し引いた量	⑧の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標
燃え殻	0.00	建築住宅系(新築・新築)						
汚泥	6.40							
廃油	0.00							
廃酸	0.00							
廃アルカリ	0.00							
廃プラスチック類	92.17							
ゴムくず	0.00							
金属くず	118.06							
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	55.70							
窯さい	0.00							
がれき類	2,572.18							
ばいじん	0.00							
紙くず	10.43							
木くず	399.69							
繊維くず	0.90							
熱植物性残渣	0.00							
動物系固形不燃物	0.00							
石綿含有産業廃棄物	0.40							
廃石膏ボード	48.72							
混合廃棄物(安定型)	0.00							
混合廃棄物(管理型)	38.20							
石膏ボード	18.89							
水銀使用製品産業廃棄物(照明)	0.00							
合計	3357.53	3,022	0	0	0	0	0	0